

学校		学校の運営計画（4月）		評価（3月）	
学校の運営方針		The Main Creator（社会の変化に対応し、社会を支え、その発展に寄与する人材）を育成する。 Think Globally（国際的な視野をもって考える）とAct Locally（地域で活躍する実践）を前面に出して教育活動を展開することで、The Main Creatorの基盤となる「体力（健康）」「学力（英知）」「豊かな心（情操）」とそれを将来にわたって貫くための「志（フロンティアスピリット）」を伸長させる。			
昨年の成果と課題		年度重点目標		具体的目標	
<p>・学習面においては担任、学年主任の連携のもと指導を行った結果、出席率は99%を超えることができた。一方で授業態度は一部で主体性に欠けることもあり、ICT環境を生かした授業改善が急務である。</p> <p>・進路に関しては本校キャリア教育充実の柱の一つである体験型学習においては、様々な場所・内容の経験、体験が生徒の進路意識を高める良い機会となった。希望制課外を更に充実させ進学、就職ともに求められる基礎学力の更なる定着を図りたい。</p> <p>・生徒指導面においては各学年において遅刻した生徒への指導を粘り強く行ったが、繰り返し遅刻する生徒を0名とすることはできなかった。また、人間関係が起因となり特別指導となるケースがあり、生徒コミュニケーション能力の向上に課題が残った。また、いじめの認知件数は1件であったが、今後とも早期発見、早期対応を心掛けていきたい。生徒は学校行事等に積極的に取り組んでおり、学校への愛着も高い。生徒会活動、部活動など生徒が主体的に取り組んでいけるよう支援していきたい。</p>		1 自己指導能力の育成 ・部活動加入率95%以上 ・出席率99%以上	(1) 体験入部の実施と、成績表彰や掲示による部活動を推進する体制をつくり、高体連躍進校20以内を目指す。 (2) 学年を中心とした指導体制を充実させ、遅刻5回以上の生徒0名を目指す（遅刻常習者の根絶）。 (3) 規範意識の育成を行うことにより、自己指導能力の育成を図り、学校への愛着80%以上を目指す。		
		2 学ぶ意欲の向上 ・体験重視の教育の推進 ・授業改善	(1) 体験重視の教育の推進とICT環境を生かした授業改善により、『主体的・対話的で深い学び』の実現を目指す。 (2) 3年生は大学入学共通テスト受験者50名を目標とし、国公立合格者15名以上を目指す。 (3) 学習習慣の確立と基礎学力の定着を図るため、家庭学習時間1時間以上を目指す。		
		3 地域連携による「北九州愛」の育成 ・幼小中大特の交流事業の推進 ・地域と連携した教育活動の充実	(1) 特別支援学校、幼稚園との交流会を定期的に企画し、生徒の活動体験を支援する。 (2) 近隣小学校や中学校との体育的行事や生徒による部活動指導の交流を通して、生徒の自尊感情の育成を図る。 (3) 地域やPTAとの交流に全職員が年1回以上参加することによる「北九州愛」の醸成。		
		4 生徒理解による良好な人間関係の構築 ・多様性の尊重と理解 ・職員間の緊密な情報共有による生徒理解	(1) 生徒との面談期間の設定を年2回以上行うとともに、SCと密接に連携し、生徒理解に努める。 (2) 会議や各委員会での尊重の情報交換の場を必ず設定することで、早期問題解決を図る。 (3) 多様化する生徒の尊重と理解を図るための人権学習と職員研修の充実。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題	
学習指導	ICTを積極的に活用した授業改善と、基礎学力の定着及び上位層の育成	大型提示装置の設置を受け、活用できる教材の提供を行うとともに、研修課と連携し、授業公開や研修会を通じて積極的に取り組む場を設定する。 生徒が主体的に学ぶ授業を行い、基礎学力の定着を図るとともに、進路実現に向けて上位層を育成する。			
	体験重視の教育の推進	体験学習を教育課程に組み込み、課題解決を意識した学習過程や、学ぶ意欲を継続させるための自己評価について工夫し、主体的に学ぶ態度を育成する。 アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行い、主体的、対話的で深い学びを実践する。			
進路指導	キャリア教育を充実させ、志をもって新たな学びに向かう力と未来を生き抜く力を育てる。	各種ガイダンス、インターンシップ等の体験活動を充実させ、進路意識を更に高める。 進路決定を最終目標とさせず、その先をも見据えた指導を徹底し、自らの将来像を考える機会を適宜設定する。 進路内定後の指導を徹底し、卒業まで自覚と緊張感を持った高校生活を過ごさせる。			
	長期的な視野に立ち、個に応じた指導を深化させるとともに、生徒の学力を伸長させ、個々の希望進路を実現する。	低年次から出欠や評定等を意識させ、自己の進路について県外大学等も視野に入れた幅広い選択肢を考えさせる。 放課後希望制課外を更に充実させ、実力養成に努めるとともに、推薦・AO入試を中心とした進学指導を強化する。 受験指導（面接、小論文対策等）を戦略的に実行し、最後まであきらめず、挑戦し続ける指導を行う。			
生活指導	基本的な生活態度の確立に向けて、全職員が共通した認識を持って指導の徹底を図り、規範意識及び自己指導能力の育成に努める。	遅刻・欠席・早退の防止を目指し、登校指導や挨拶運動（計6回）を行うとともに家庭との連携を徹底する。 毎月初めに、服装・頭髪指導を実施し、身だしなみへの意識を高める。 毎月いじめ対策委員会を開催し情報を共有するとともに、いじめの早期発見、早期対応、体制の整備、充実を努める。			
	部活動体験入部をはじめ、様々な活動を行うことで部活動加入率の向上を目指すとともに、部活動に所属している生徒が意欲的にそれぞれの活動を行うことができるように環境の整備に努める。	体験入部等を充実及び新入生への積極的な勧誘を行うことで、部活動入部率95%を目指す。 部活動成績の表彰・活動内容や結果を掲示することで、生徒自身の活動意欲を高める。 校外での諸活動（総合部等）について、大会出場を支援し、高体連の年間表彰では躍進校20位以内を目指す。			
研修	授業改善に関する研修の充実を図り、教員個々の指導力を高め、生徒の新たな学びに向かう力を育成する。異校種間交流や芸術鑑賞を企画・実施し、生徒の体験重視の教育を推進する。	ICTを活用する研修を実施し、授業改善に対する意識を高め、生徒の新たな学びに向かう力を育成する。 公開授業週間や研究授業を行い、教員相互に授業改善について意見交換する機会を設ける。 特別支援学校や幼稚園との交流事業を企画し、体験活動を通して確かな成長を実感させる。			
保健・安全	生徒の心身の健康保持増進と学校生活が安全、安心して送れると共に校内の環境美化を推進し、学習環境の整備に努める。減災力の育成と地域に繋がる防災訓練を行う。	生徒の健康観察に努め、早期発見、早期対応を行う。特に多種なウイルス感染予防対策に努める。 校内美化点検を月に2回実施することで、生徒、職員にも美化意識の育成を図る。 火災、地震だけでなく、緊急時の対応だけでなく、減殺に繋がる知識と実践力をつけさせる。 校内の諸行事に際し、定期的に会議を開き、関連する項目の綿密な早期計画を立てる。（各行事1月前には担当教員と業務内容の確認を図る） 教務や学年等、週に1度は他の分掌のチーフと定期的な連絡を取り合う定例会を実施する。 PTA関係の行事を充実させ、参加者が増えるように、役員会や理事会の事前打合せを毎回確実に実施する。			
庶務	諸行事における早期計画のもと1月前には準備、実行する。各分掌との連携を密にし、校務の運営の円滑化を図る。また、役員会や理事会、その他PTA行事への全職員の積極的参加を促し、保護者との連携を深めて学校の活性化に努める。	学校ホームページやICTの活用職員研修を実施し、全職員がホームページの更新を1回以上行う。 点検日に情報機器の保守点検を実施する。また、個人情報の流出や情報漏えい等がないように学期に1回以上注意喚起する。 保護者連絡メールの登録者数を保護者全体の90%以上にし、学校からの情報を保護者に伝える。			
教育の情報化推進	情報教育を推進し、情報機器の効果的活用と情報管理の徹底に努める。また、学校ホームページを利用し、適切な情報発信を地域社会に行う。	学年代表生徒を選出し、生徒による点呼・号令など主体的な行動できるよう指導する。 朝の学習時間や総合的な探求の時間を通じて論理的思考力を涵養していき、適切な量の課題で学力を確立する。 FINESYSTEMを用いてGTZの到達人数の推移を分析し、重点科目を集中的に指導する。 学年全体出席率99%以上の維持、皆勤生徒120名以上の達成、教室移動時の5分前行動と集合時における静寂保持の定着 普段の授業を大切にするために集中して取り組む環境の整備、既習事項復習の徹底を図り、提出物期限完了率80%以上の定着 校外模試における個人成績でB層以上のランクに入る生徒を40名以上輩出輩出できるような環境整備の徹底			
第1学年	(1) 生徒指導の徹底出席率99%、皆勤150名以上。5分前行動と集合時の静寂の維持。 (2) 自宅学習時間1時間以上(英語を中心とする)。小論文指導の徹底。 (3) 進路指導の推進、校外模試B層以上を50名以上輩出。	面談や進路ガイダンス等で進路意識を高め、課外等個別の学習指導を計画する。 学習計画を立てさせ、学習習慣の確立に向けて指導・助言を行う。 欠席及び遅刻者については個別に対応し、その減少に努める。			
第2学年	生徒が自ら考えて行動できるための基本的な生活習慣と学習習慣の確立に向けた授業を最優先として集中して取り組める環境整備を行う。また、個に応じた挑戦を教員が促すことで、挑むことの意義や喜びを生徒自身に体験してもらう。生徒一人ひとりに自己存在感を与えつつ、他者への共感的理解ができる能力の育成を目指す。				
第3学年	進路実現を図り、四年制大学進学者90名以上、うち国公立大学進学者20名以上、センター受験者50名以上を目指す。自学の時間が2時間以上確保されるようにする。出席率99%以上、出席皆勤者150名以上を目指す。				
人権教育	気になる生徒に関する定期的な情報交換を行ないながら、全職員が共通認識を持ち、いじめや人間関係トラブルの未然防止、対応に努める。教職員自身の人権意識を磨く為、各種研修会に積極的に参加する。	同推委員会を定期的に関き、気になる生徒についての情報交換を行い退学・留年・不登校の防止につなげる。 人権同和教育及びインクルーシブ教育に関する研修会に必ず参加することにより教職員の人権意識を向上を図る。			